

標 題 : Bioactive effects of olive oil phenolic compounds in humans:  
reduction of heart disease factors and oxidative damage [Review]  
ヒトにおけるオリーブ油フェノール化合物の生物活性の影響 :  
心疾患因子および酸化的損傷の低下 [総 説]

---

著 者 : M.-I. Covas (スペイン Institut Municipal d'Investigació Mèdica (IMIM-Hospital  
del Mar) 心臓血管系リスクと栄養学グループ)

---

掲 載 誌 : Inflammopharmacology 16: 216–218 (2008)

---

要 旨 :

酸化ストレスは、酸化剤と体の抗酸化システムとの間の不均衡で酸化剤が有力なものと、定義される。

フリーラジカルによって作られる酸化ストレスは、心臓血管系疾患、癌および神経変性疾患など複数の疾患の発症に関連してきた。

オリーブ油は地中海食事の主な油脂源であり、それは疾患および加齢とも関連する酸化ストレスに対して有効と示されてきた。

1 価不飽和脂肪酸のオレイン酸が豊富な他に、オリーブ油は抗酸化特性のある微量成分を含有する。

ここで我々は、ヒトにおける脂質および脂質の酸化的損傷に対するオリーブ油フェノール化合物の予防的役割に関する知識体系の最先端および証拠の度合いを更新する。

キーワード : オリーブ油、フェノール、LDL 酸化、DNA 酸化、抗酸化物

---